

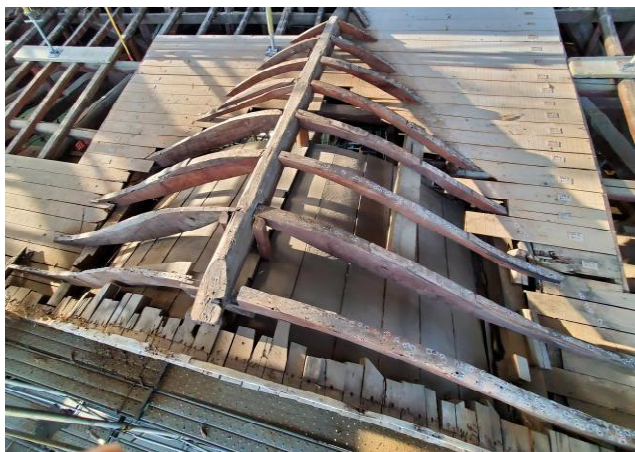


内子座 藝於遊



屋根まわりの木部の解体②

令和8年1月23日、唐破風部分の野地板解体が始まりました。野地板を解体すると垂木が顔を出しますが、下の写真が骨組みになった唐破風部分の様子です。何かしらの生き物が化石になった骨に見えてきて面白いです。垂木はカーブになる部分が付け足してあったり、形状もまちまちであったりと、工夫しながら建築されている様子がうかがえます。これを支えに、野地板・土・瓦がのっていたことを思うと、よくがんばっていたねと褒めてあげたくなりますね。



また、同時期に作業されているのが東西檜の野地板解体です。瓦の解体同様、急な斜面での作業に加え、足元も細い垂木を足場にしての作業で、職人さんも達も気が抜けません。



▲西檜の野地板解体の様子

文化財防火デーと防火訓練

1月26日は文化財防火デーです。法隆寺金堂の焼損事件に由来していて、この時期、全国で防火訓練や文化財の紹介などが行われています。内子座でもちょうどこの日にあわせ、防火訓練を実施しました。

例年は、内子座の職員やスタッフで行っていますが、今年は工事関係者も参加して行いました。さらに、小学生児童もお客さんの役割として参加するなど、幅広い年齢層での訓練となりました。



内子座楽屋から火災が発生した想定で実施した防火訓練。訓練後は火災通報や避難誘導について、消防署から講評等をいただきました。続いて水消火器による消火訓練を行いました。参加した児童もがんばって消火器の扱い方を学びました。



住宅密集地にある内子座。今後も気を引き締めてなお一層の防火に努めていきます。